

平成27年度
学校評価の結果と考察
(平成28年2月4日)



上田市長和町中学校組合立
依田窪南部中学校

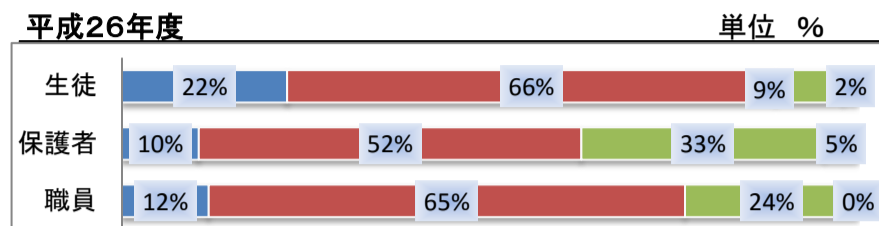
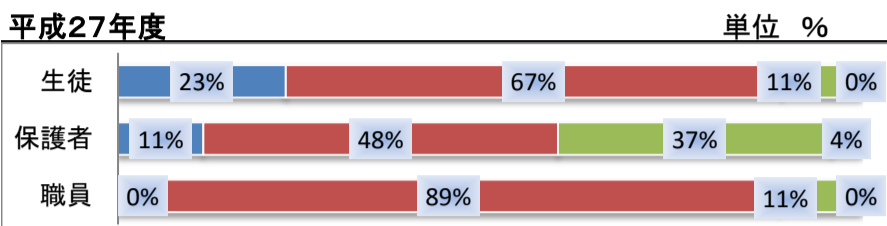
平成27年度 学校自己評価

1. 結果と考察

* グラフ左から A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:ややあてはまらない D:あてはまらない
 * パーセンテージは小数点以下を表示していないので、合計値が100%になっていない項目もあります。

【質問項目1】 学習内容の理解

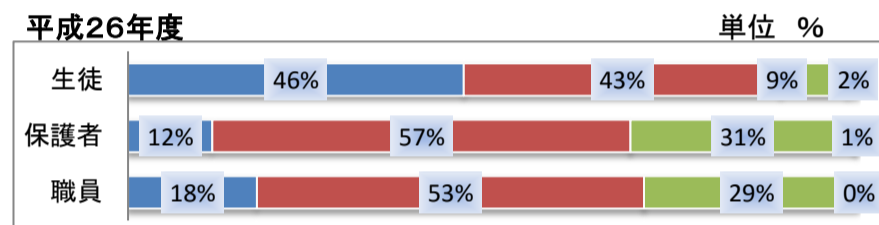
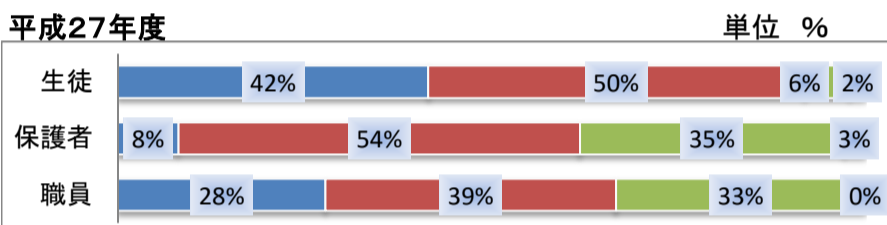
【生徒】 教科の学習内容が理解できた。
 【保護者】 生徒(お子さん)は、学校の授業の中で、教科の学習内容が理解できている。
 【職員】 学習のねらいやつける力を明確にして手立てを工夫し、生徒一人ひとりのねらいの達成を見届けることで、生徒の学習内容の理解を深め、学力の定着を図ることができた。



＜考察＞
 生徒の理解度は、昨年度とほぼ同様の傾向であるが、保護者のとらえは、やや低下している。テストの得点を中心にして学習内容の理解度を判断されていることが考えられるので、保護者へさらに授業の参観を呼び掛け、授業中の学習への取り組みを見ていただくとともに、テストでの得点力を伸ばしていくことが必要である。職員のC評価の割合は減少しているが、【質問項目3】にも関わって、職員で授業を参観しあったり、教材研究の時間を確保したりして、さらに授業改善を図っていききたい。

【質問項目2】 学習への取り組み(グループ学習)

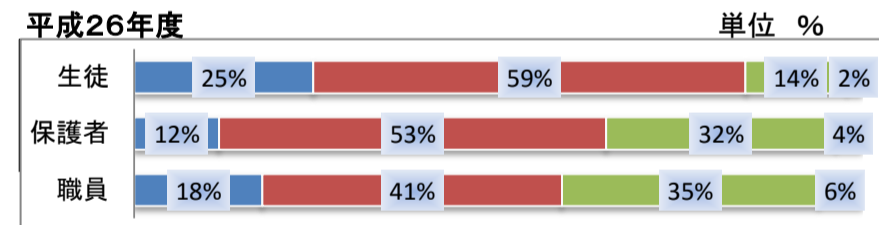
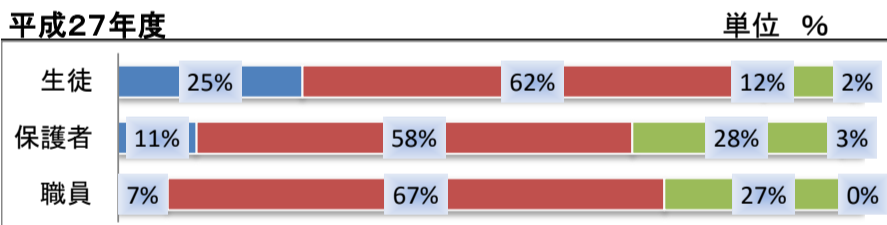
【生徒】 グループ(ペア)で学習することで、主体的(意欲的)に学習に取り組むことができた。
 【保護者】 授業参観の姿や生徒(お子さん)の話から、生徒(お子さん)が授業に興味を持って意欲的に取り組んでいると感じられる。
 【職員】 グループ(ペア)学習を授業に工夫して取り入れることで、生徒が意欲的に学習に取り組むことができた。



＜考察＞
 A評価とB評価を合わせた割合を見ると、生徒の評価が若干向上している反面、保護者、職員の評価は若干後退しており、生徒と職員の意識に差が見られる。グループ学習の中でお互いの意見を出しあい、「試行錯誤をしながら学習を深める授業の組み立て」、「家庭でも意欲的に学習する姿が見られるような指導のあり方」の2点に各教科で取り組んでいきたい。

【質問項目3】 授業の工夫や改善

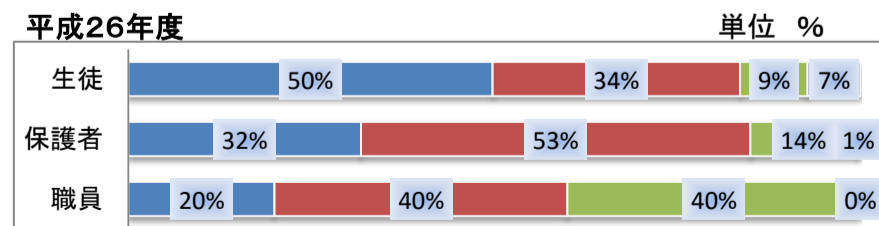
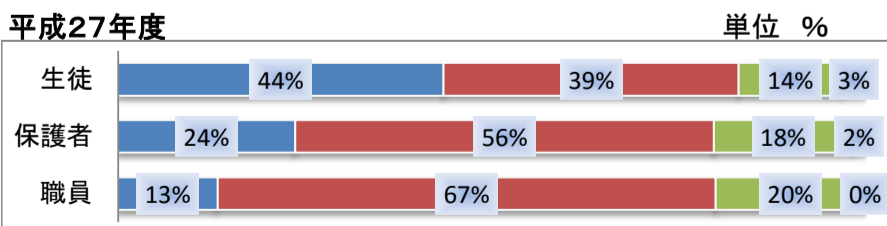
【生徒】 各教科の授業では、学習の仕方や教材などが、わかりやすく工夫されている。
 【保護者】 授業参観の姿や生徒(お子さん)の話から、教科学習では分かりやすい授業づくりに努めていると感じられる。
 【職員】 生徒の学ぶ姿や互いの授業を見合うことで、自分の授業の改善を図ることができた。



＜考察＞
 昨年度に比べ、A評価とB評価を合わせた割合は、生徒では3ポイント、保護者では4ポイントそれぞれ増加している。職員も、生徒・保護者と質問が異なるが、A・B評価の割合が大きく増加している。授業改善の結果が生徒・保護者の満足につながるようにしていきたい。また、学校から発信する通信等の内容は行事中心になりがちであるが、「授業でわかってうれしい」という生徒の感想を載せるなどして、家庭に授業の様子が伝わるように工夫したい。

【質問項目4】 全校一斉ドリルテスト・補充学習・補習学習

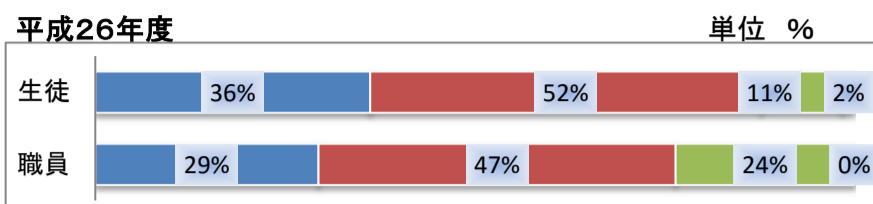
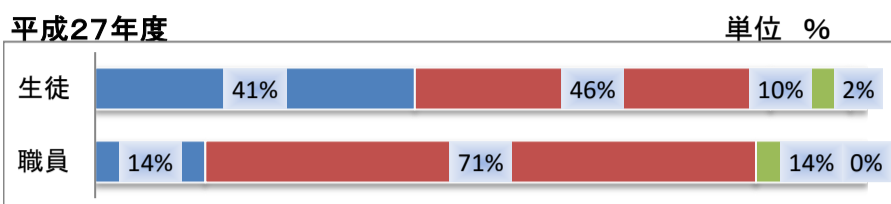
【生徒】 全校一斉ドリル、補充学習、テスト前や宿題の補習などを行うことで基本的な問題が解けるようになった。
 【保護者】 ドリルテスト、補充学習、テスト前や宿題の補習などは、生徒(お子さん)の基礎的な学力の定着を図るために役立っている。
 【職員】 全校一斉ドリル、補充学習、テスト前や宿題の補習などを行うことで、基礎的な学力の定着を図ることができた。



＜考察＞
 生徒と保護者は昨年度とほぼ同じ傾向である。テスト前の補習も定着しつつあり、生徒と保護者からは一定の評価が得られていると思われる。また、職員のA・B評価の割合が20ポイント増え、基礎的な学力向上への取り組みには、手応えを感じている職員が多い。昨年度行った数学の一斉ドリルを取りやめ、英語に一本化したことも功を奏したと思われる。しかし、学力の定着に向けてはまた課題があるので、他校の効果のある実践等も参考にしながら、無理なく続けられる学力向上の方策を工夫していく必要がある。

【質問項目5】 総合的な学習の時間

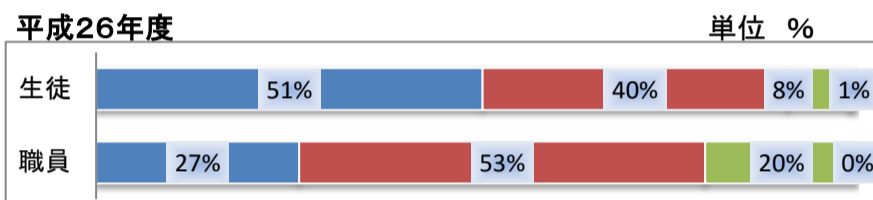
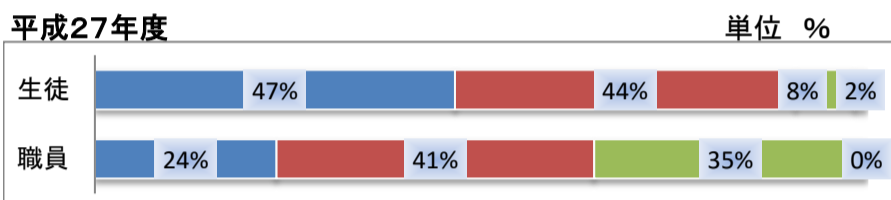
【生徒】 総合的な学習の時間で、自分から課題を持って学習に取り組むことができた。
 【職員】 各学年の計画に沿って総合的な学習の時間を行う中で、生徒自らが課題を持って学習に取り組むことができた。



＜考察＞
 昨年度と比べると、「自ら課題を持って学習に取り組むことができた」と答えた生徒の割合が4ポイント増えた。職員のC評価の割合も減少しており、昨年よりも総合的な学習への取り組みが、改善されていると言える。総合的な学習における「生徒のもつ課題」をさらに明確にし、生徒自身がその課題を把握して学習を深めていくことが、さらなる改善につながるのではないかと考える。

【質問項目6】 学習集会での話し合い

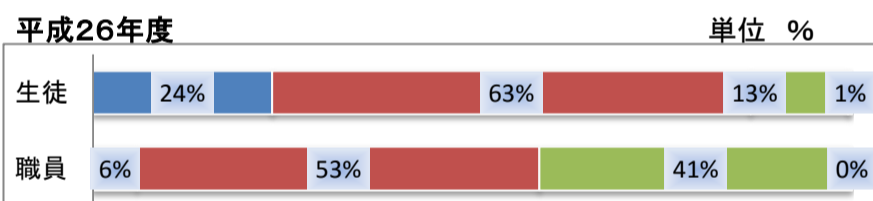
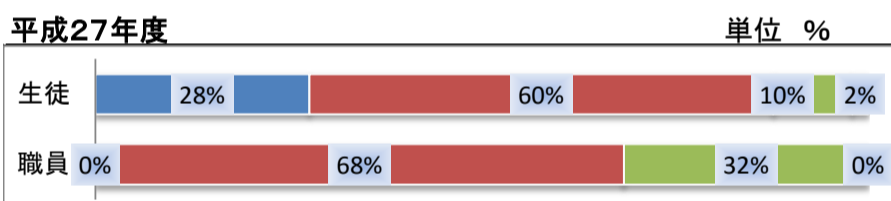
【生徒】 学習集会のグループ活動では、友だちの考えを聞いたり、自分の考えを述べたりすることができた。
 【職員】 学習集会のグループ学習で、生徒一人ひとりが関わられるように支援し、聴き合い伝え合う力を育てることができた。



＜考察＞
 生徒の評価は、昨年度とほぼ同様の高評価であるが、職員のC評価の割合が少し増えている。学習集会は、縦割りのグループで学年の枠を越えて考えを交換できる良い場であるが、「聴き合い伝え合う力」を育てるという目標は、達成が少し難しいのではないかとと思われる。来年度は、他学年の生徒と協力して活動することにねらいを定め、集会の内容や回数も検討していきたい。

【質問項目7】 授業での「4つの約束」

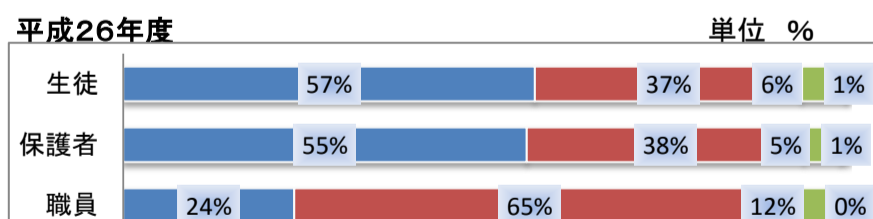
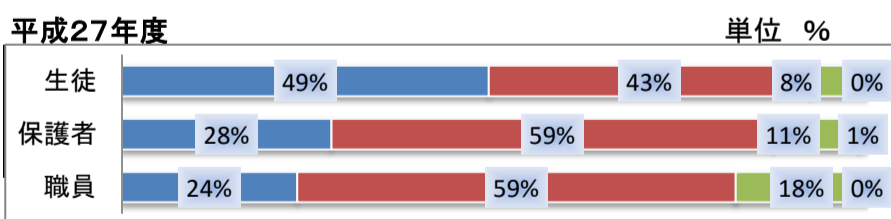
【生徒】 学習の「4つの約束」(あいさつ・返事・起立して発言・はっきり発言)を意識して授業に取り組めた。
 【職員】 授業での「4つの約束」(あいさつ・返事・起立して発言・はっきり発言)を定着させることができた。



＜考察＞
 生徒は昨年度と同様の傾向にある。職員はAとDが0%となり、Bの比率が増加している。昨年度はCの比率が高かったことから、今年度は「4つの約束」を意識して取り組むことができたのではないかと考えられる。さらに、年度当初に徹底し、生徒・職員ともに日常的に意識して行えるように、「4つの約束」を各教室のよく見える場所に大きく掲示したり、学習集会等で確認したりすることも考えていきたい。

【質問項目8】 集団との関わり

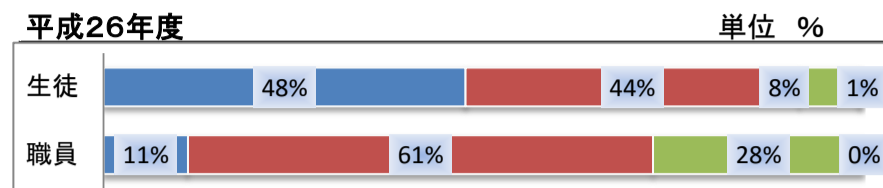
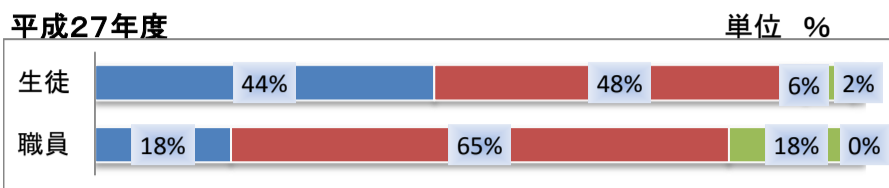
【生徒】 学級活動、生徒会活動、行事等では、自分の役割を果たしながら、クラスのみならず進んでかかわることができた。
 【保護者】 授業参観の姿や生徒(お子さん)の話から、生徒(お子さん)は、級友とかかわりながら学校生活を送っていると感じられる。
 【職員】 学級活動、生徒会活動、行事等で、生徒一人ひとりに役割を持たせることで、生徒が主体的にクラスのみならずかかわって活動できた。



＜考察＞
 生徒、保護者、職員全てにおいて、A評価とB評価を合わせた比率が昨年度よりもやや低くなっている。特に保護者のA評価が低下している。参観授業等で、互いに関わりながら学び合う姿が見られるような授業や学習活動の工夫をしたい。ここでは学年別の集計は掲載されていないが、学年が上がるにつれてABを合わせた比率が高くなっている点は、例年と同様の傾向である(1年88%、2年92%、3年96%)。学年を経るごとに様々な場面で級友とかかわりながら活動できることが多くなっていると考えられる。集団の中での生徒達の成長を促す活動を今後も大切にしながら、来年度の教育課程を構築していきたい。

【質問項目9】 友達との関わり

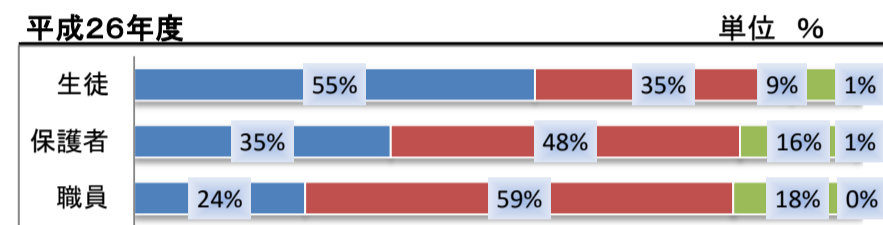
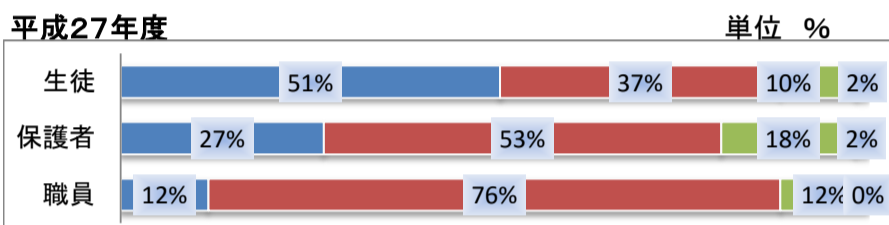
【生徒】 集団の中の自分の姿や集団のあり方を考えることで、友だちのことを考えたり自分のことを相手に伝えたりしながら、学校生活を送っている。
 【職員】 集団の中の自分の姿や集団のあり方を考えさせることで、生徒が友だちのことを考えたり自分のことを相手に伝えたりしながら学校生活を送ることができた。



<考察>
 生徒のA評価とB評価を合わせた比率は、昨年度とほぼ同じ値にある。このことから、学年が上がっても、自分の意見をクラスで言うことができたり、相手の立場になって考えることができたりと、友達との関わりが上手にできていると考えられる。また、職員のA・B評価は、昨年度より10ポイント増加している。これは、個に対しての指導だけでなく、個と個の結びつきを考えた指導ができていることの表れだと言える。しかし、CあるいはDと回答した生徒の存在をしっかりと認識して、生徒同士の関わりに常に配慮し、誰もが安心して学校生活を送れるような指導を心掛けたい。

【質問項目10】 達成感や楽しさ

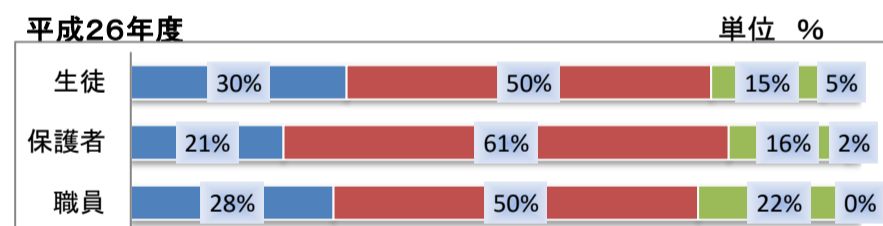
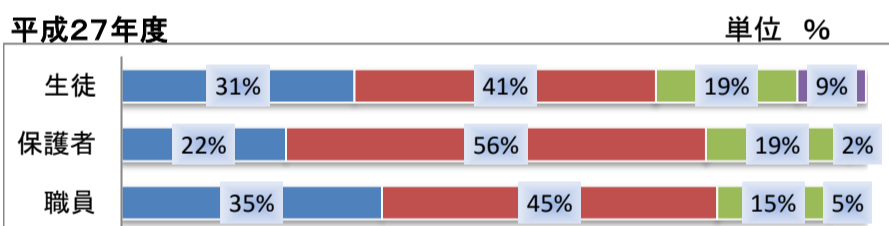
【生徒】 学級活動、生徒会活動、行事、部活動等で、達成感や楽しさを感じながら、自分から積極的に活動に取り組めた。
 【保護者】 生徒(お子さん)は、学校生活の中で、達成感や楽しさを感じながら諸活動に取り組んでいる。
 【職員】 学級活動、生徒会活動、行事、部活動等で、人間関係づくりの場や生徒自らが主体的に活動に取り組む場を設定することで、集団としてのまとまりが向上するとともに、集団の中で個々の良さが発揮されている。



<考察>
 A評価とB評価を合わせた比率は、昨年度とほぼ同じで全体としては高い評価と言える。しかし、A評価の割合はやや減少しており、特に職員と保護者の評価が低下している。特にどの学習活動において評価が低いのかを分析してみる必要もあるが、それぞれの活動の意義や目的を明確にして、一つひとつの活動への意欲を高め、達成感や楽しさにつながるような指導を工夫していきたい。

【質問項目11】 生徒理解

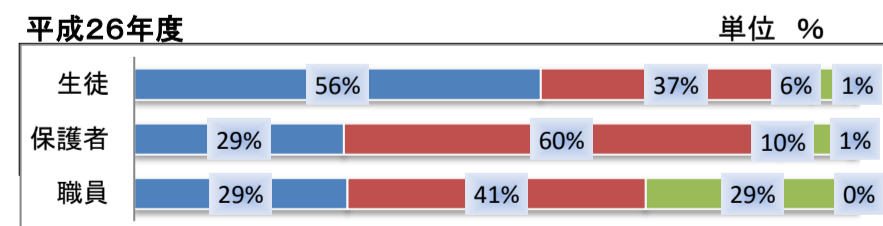
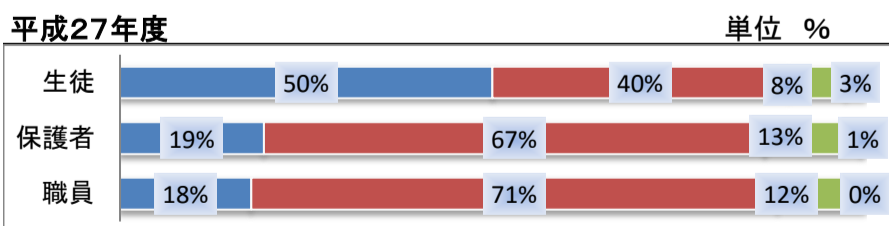
【生徒】 何かあったときなどに、先生方のだれかに相談することができた。
 【保護者】 学校の職員は、生徒にあいさつや声がけをしたり、何かあったときは相談にのったりしながら、生徒とかかわっている。
 【職員】 生徒を深く理解し支援するために、生徒の実態把握に努め、生徒に声をかけたり相談にのったりしながら、日々生徒と個々に応じたかかわりを持つことができた。



<考察>
 昨年と同様、概ね生徒との相談ができている傾向が見られる。1学期と2学期にそれぞれ教育相談の日が設定され、各学級で個々の相談がなされていることの一つの成果と言える。また、スクールカウンセラーとの面談も、1回だけでなく継続して行われている。しかし、全般的にD評価C評価の割合が数ポイントずつ増えており、特に生徒のA・B評価の割合が減少している。定期テスト前に、学習相談として生徒から教科担任へ質問に行く時間を確保したり、学級担任や教科担任だけでなく、部活や生徒会の顧問、学校長、教頭等への相談もできるような体制を整えたりしていきたい。

【質問項目12】 人権教育

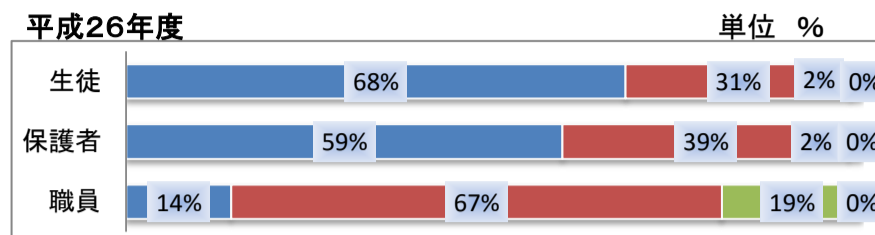
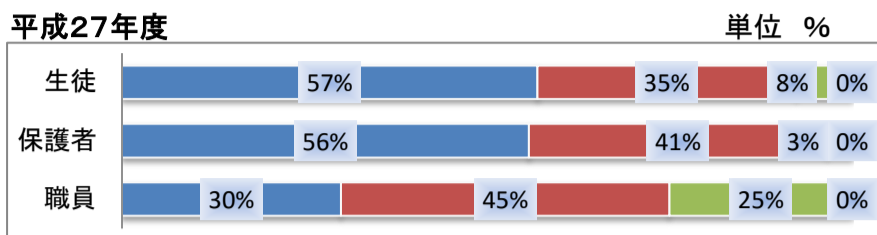
【生徒】 人権教育での取り組みや日々の学校生活の中で、人のことを大切に思う気持ちと、いじめや差別のない集団づくりにかかわっていきこうとする気持ちが持てた。
 【保護者】 生徒(お子さん)は、人権教育での取り組みや日々の学校生活を通して、人のことを大切に思う気持ちと、いじめや差別のない集団づくりにかかわっていきこうとする気持ちが育ってきていると感じられる。
 【職員】 人権教育での取り組みや日々の学校生活の中で、生徒の人権感覚を高め、いじめや差別のない集団づくりに関わろうとする気持ちを育むことができた。



<考察>
 生徒と保護者のA評価とB評価を合わせた比率は、昨年とほぼ同様9割近くを占めている。職員も今年度はC評価が減少し、生徒、保護者と同様な結果に近づいた。全体としては、人権教育が生徒たちの人権感覚を育てていることがうかがえる。生徒はA評価が最も多いのに対して、保護者や職員はB評価が多くなっている。これは、保護者や職員が生徒を見守る立場にあることから、子どもを心配する意識の表れだと思われる。生徒同士は、学習を生かし、差別やいじめの元になるようなトラブルが起こらないように努めていると考える。しかし、C・D評価の生徒が約1割いることも大事に考え、今後も人権教育に力を入れていきたい。

【質問項目13】 清掃の取り組み

【生徒】 無言清掃を心がけて、清掃に進んで取り組めた。
 【保護者】 来校した際、校舎内外の清掃が行き届いていると感じる。
 【職員】 学年目標などで清掃への取り組みの活性化を図ったり、ともに清掃に取り組んで現場指導をしたりすることで、生徒が進んで清掃に取り組むことができた。

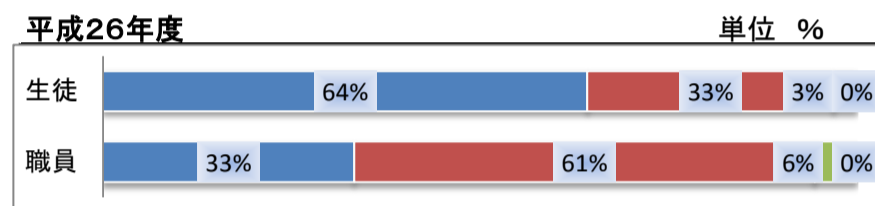
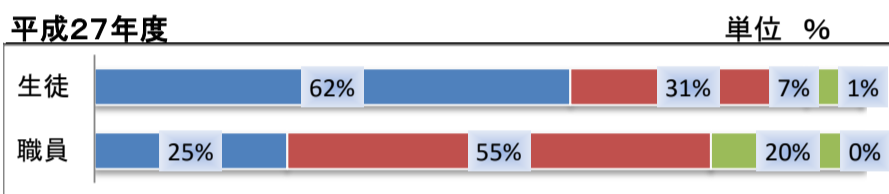


<考察>

生徒・保護者の評価は、昨年とほぼ同様に高い評価を示しているが、生徒のA評価が減少している。有効な手立てである「縦割り清掃」の期間を長くしたり、清掃前の黙想を徹底したりして、さらに清掃への意識を高めていきたい。また、職員の評価を見ると、A評価の割合とともにC評価の割合も増えている。これは、職員間の清掃に対する意識の違いの表れだと考えられる。望ましい清掃の在り方について職員間で共通理解を図り、「師弟同行」の指導を心掛しつつ、無言清掃が、本校の良い伝統として引き継がれるようにしていきたい。

【質問項目14】 時間に沿っての行動

【生徒】 授業、給食、清掃、登下校などで、学校生活において時間を守って生活できている。
 【職員】 授業記録カードでの評価、生徒の活動への支援、教師自らが時間を厳守する姿などで、生徒の時間を守ることへの意識を高め、生徒が時間によって活動することができた。

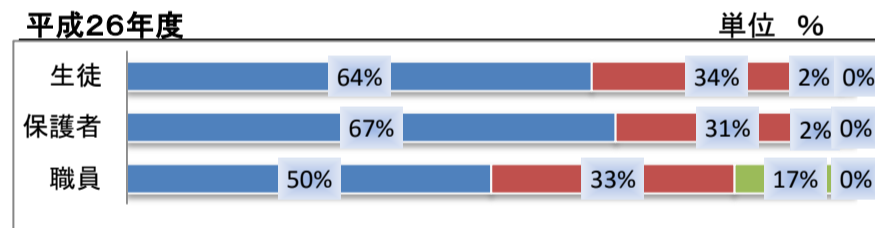
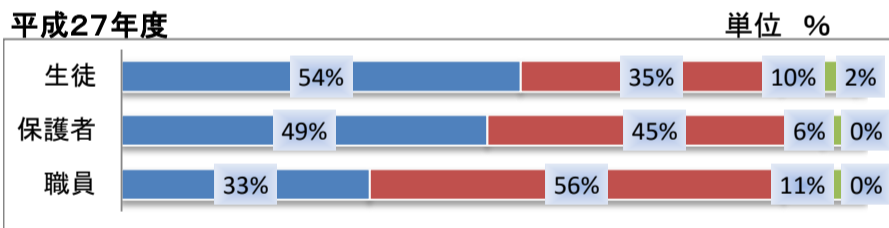


<考察>

生徒と職員との意識の差が昨年度同様であり、生徒・職員ともにA評価の割合が減少している。また、C評価の割合が、生徒、職員ともに増加している。学校生活の中で大切な「時間を守る」という意識が、やや低くなっていることがうかがえる。職員の意識をさらに高め、職員が率先して「時間厳守」を心がけるとともに、今後も生徒の良さを認めながら、生徒会活動を中心に、生徒自らが学校生活の向上を意識して取り組めるような活動を増やしていきたい。

【質問項目15】 合唱活動

【生徒】 合唱の発表の場に向けて学年や学級で、または全校集会や学年集会等で、意欲的に歌を歌えた。
 【保護者】 文化祭や授業参観での姿、生徒(お子さん)の話から、南中の生徒は、全校、学年、学級での合唱に意欲的に参加していると感じられる。
 【職員】 合唱練習を学年集会や学級の活動に位置づけ、練習の時間を確保したり、発表の場を設けたり、職員自ら合唱に参加したりすることで、校内に日々生徒たちの歌声をひびかせることができた。

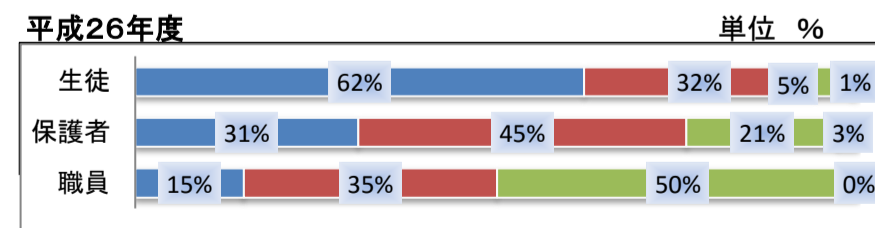
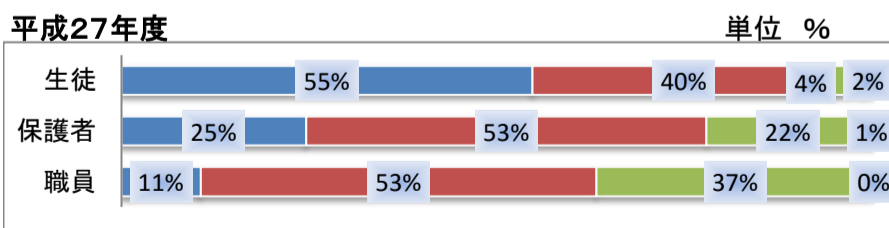


<考察>

昨年度と同様に、A評価とB評価を合わせた比率が高く、合唱活動が本校の大きな柱になっていることを示している。しかし、生徒のA評価の割合はやや減少し、C評価の割合が増加しており、生徒の合唱活動への意識には差があるのではないかとと思われる。まとまって活動し表現することで一人では得られない満足感や充実感ももてる合唱の良さを味わわせつつ、活動の目的をより明確にして取り組めるように指導していきたい。また、3学年では、A評価の割合が6割を越えており、合唱への取り組みは、本校生徒の3年間の成長の姿をよく表していると言える。今後も継続して充実させていきたい。

【質問項目16】 あいさつ

【生徒】 学校、学年、学級、部などの活動を活かしながら、学校や地域で、自分から進んであいさつをしている。
 【保護者】 南中の生徒は、学校や地域で進んであいさつをしている。
 【職員】 学校、学年、学級、部などでの指導により、学校や地域で、生徒が一人でも進んであいさつができるようになった。

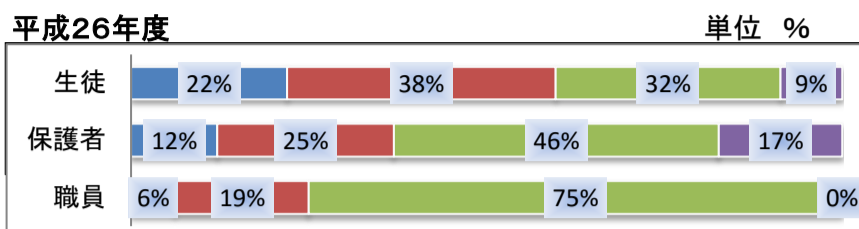
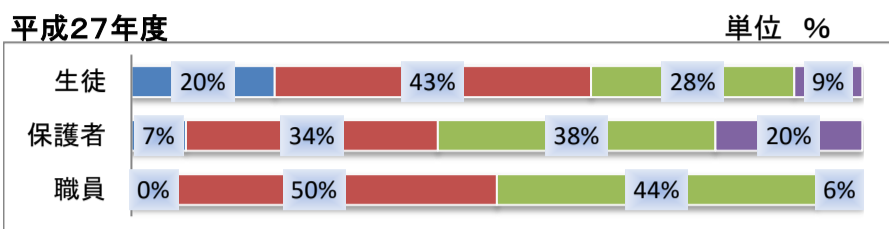


<考察>

生徒と保護者の評価は、昨年度と同様の傾向にある。しかし、昨年度に比べ、A評価の割合が生徒・保護者・職員全てでやや低下した。今後、学校や家庭で、さらに意識してあいさつを心がけていく必要がある。あいさつの良さは本校の伝統でもあり、生徒へのアンケートでも「気持ちよく生活するために大切にしたいこと」として、あいさつを挙げている生徒が多かった。あいさつが、本校の大きな柱の一つとなるよう、学校・家庭・地域等のどんな場面でも気持ちの良い挨拶ができる南中生を目指していきたい。

【質問項目17】 家庭学習

【生徒】 学習方法や家庭学習について考え、宿題や自主学習をすることで、学年目標時間(1年90分・2年120分・3年150分)の家庭学習を行っている。
 【保護者】 お子さんは、宿題や自主学習などに取り組んで、学年目標時間(1年90分・2年120分・3年150分)の家庭学習を行っている。
 【職員】 「学習の手引き」や家庭学習時間調査などの学習方法や家庭学習についての指導や、適切な課題を課すなどの指導をすることで、生徒が学年目標時間の家庭学習を行うことができた。

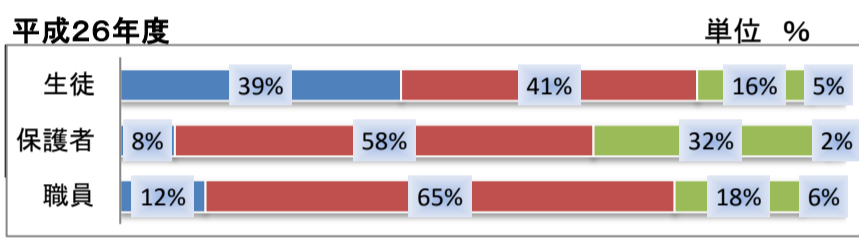
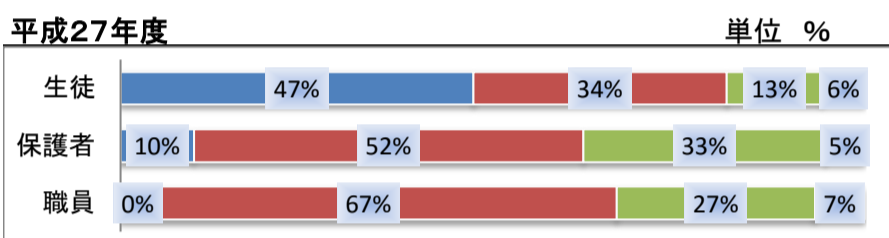


<考察>

昨年度に比べると、職員のA、B評価の割合が、高くなっている。これは、職員が、家庭学習の方法を具体的に示し、内容や課題の出し方も工夫して、これまで以上に指導に力を入れてきたという意識の表れだと思われる。それに対して、保護者のA、B評価の割合は微増しているものの、生徒の状況は、ほぼ昨年と同様の評価にとどまっている。職員は、ある程度、指導の手ごたえを感じているものの、学習目標時間までには達していない生徒が多いことがうかがえる。家庭学習の内容を家庭にも知らせて家庭と連携しつつ、さらに家庭学習の充実を図っていきたい。

【質問項目18】 生活習慣づくり

【生徒】 学校の通知や生活実態調査の結果、学校での指導を参考にして、より良い生活習慣づくり(早寝・早起き・朝ごはん)に取り組めた。
 【保護者】 生活実態調査などの学校での指導は、お子さんのより良い生活習慣づくり(早寝・早起き・朝ごはん)のために役立っている。
 【職員】 学校の通知や生活実態調査の結果等を活用して指導することで、生徒がより良い生活習慣づくり(早寝・早起き・朝ごはん)に取り組んだ。

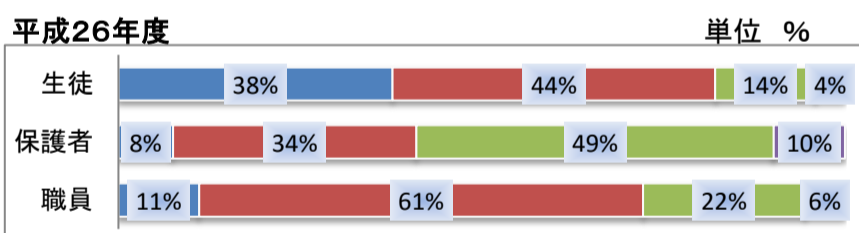
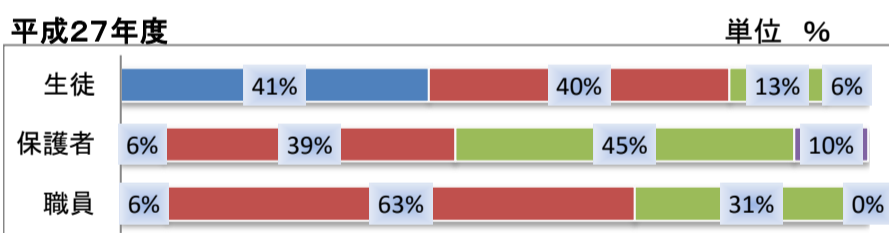


<考察>

昨年とほぼ同様の傾向であり、生徒と保護者、職員間で評価に差が見られる。職員の場合は、生徒の家庭での状況が直接はつかめないで、やや評価が低くなっていると思われる。生徒と保護者の間で意識の差があるのは、「早寝・早起き」の時間についての意識の違いの表れではないか。貴重な取り組みであるPTA厚生部の生活実態調査をさらに活用して、より望ましい生活習慣づくりに向けて、家庭と連携して取り組んでいきたい。

【質問項目19】 メディアコントロールの実践

【生徒】 メディアコントロールの実践に取り組めた。
 【保護者】 メディアコントロールの取り組みは、家庭において家族の会話づくりや学習時間・読書時間を増やすために効果が出ている。
 【職員】 ノーメディアの必要性を指導することで、生徒それぞれの目標を持ってメディアコントロールの実践に取り組むことができた。

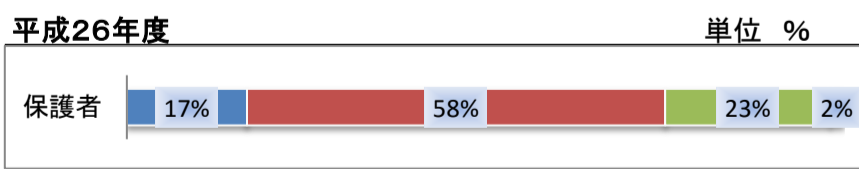
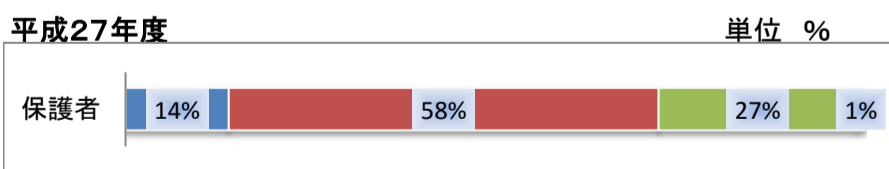


<考察>

昨年とおおむねは同様の傾向である。生徒と保護者、職員の評価に差が見られるが、生徒は、取り組めたかどうかの評価、保護者は、取り組んだ結果、効果が出ているかの評価、職員は指導の結果生徒が取り組めたかの評価のため、一概に比べることはできない。メディアコントロールについては、月に1回のメディアコントロールデーの実施、学校保健委員会、学習集会、PTA厚生部の生活実態調査等で、生徒や保護者の関心を高め、実践意欲に繋がるように取り組んではいるが、家庭での目に見えた効果は低かったように思われる。メディアコントロールは、家庭の理解と協力によるところが大きく、また南部地区の保小中で共通した取り組みとして行われているものなので、南部地区のPTAとも協力しながら、学校としての関わり方や取り組み方の工夫を考えていきたい。

【質問項目20】 学校からの情報の発信

【保護者】 学校は、各種教育活動に関する情報を、家庭や地域に発信している。

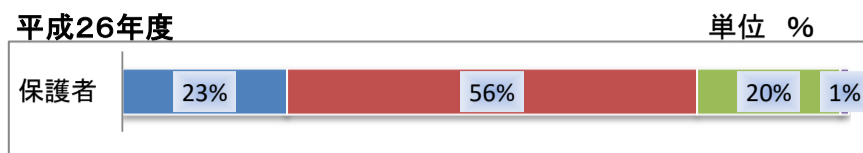
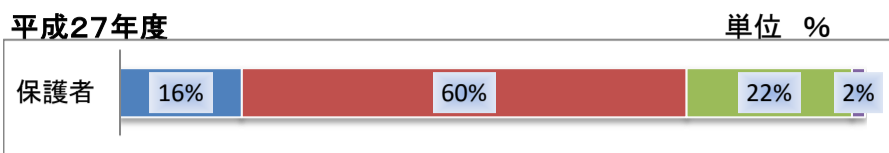


<考察>

昨年度とほぼ同様の評価である。「学級通信を出してほしい」という保護者の声もあったので、「学年通信」や「学校だより」も含めて、生徒の学校生活の様子や職員の願いが伝わるように、各種通信の内容をさらに充実させていきたい。参観日の学年・学級PTAの場も有効に活用し、ホームページもできるかぎり更新して、より多くの方に見ていただけるように周知していきたい。

【質問項目21】 家庭や地域との連携

【保護者】 学校は、生徒の成長のために家庭や地域との連携を大切にしながら各種教育活動に取り組んでいる。



＜考察＞

昨年度とほぼ同様の評価である。平成29年度からのコミュニティスクール化に向けて、苜蒲園の管理や学習支援に地域の方のボランティアをお願いしていくことを考えている。総合的な学習などでも、さらに家庭や地域の方のお力をお借りして、学習内容の充実を図っていききたい。また、「家庭学習」や「生活習慣づくり」においても、家庭との連携を密にしていきたい。

2. 保護者の方からのご意見について

貴重なご意見をいただき、ありがとございました。お寄せいただいたご意見やご指摘は、職員会議において職員全員で共有しました。今後の本校の学習活動や指導の改善に向けて、以下のように生かしていきたいと考えています。

【授業改善・学力向上】 「興味を持って楽しみにできるような授業づくりをしてほしい。」「分かりやすい授業かどうかは、先生によって個人差がある。」等、授業改善を求めるとご意見やご指摘を多くいただきました。このようなご意見を重く受け止め、職員が互いの授業を見合ったり、教科会を充実させたりして、教師の力量向上と授業改善に努めてまいります。また、「南中の学力を向上させてほしい」という学力向上に関するご意見も多数いただきました。これまでも、全国学力調査やNRT等の結果をや生徒への授業アンケートを分析して、学力向上に向けて必要な対策を講じていますが、一層の改善を図っていききたいと思ひます。また、テスト前の補習や学習相談の時間も、さらに充実させていききたいと考えています。

【家庭学習】 「提出ノートへの取り組み方の指導がされていてありがたい」というご意見をいただいた反面、「家庭学習への取り組み方がわからない」「力のつく家庭学習になっているのか」というご意見もいただきました。今後さらに、学習した内容と関連した課題を家庭学習として課したり、各教科の提出ノートの内容の充実を図ったりして、家庭学習が学力の向上につながるようにしていきたいと考えています。そのために、次年度は、家庭学習の充実のために全職員が関わる取り組みを計画しています。お子さんの頑張りに対して励ましの言葉をかけていただくなど、ご家庭でのご協力もお願いします。

【職員の姿勢】 「生徒の意見を尊重した対応や指導に感謝。」「小さなことでも親身になってじっくり相談にのっていただきありがたい。家庭でもバックアップしていきたい。」というありがたいお言葉をいただきました。今後も、生徒の気持ちに寄りそい、ご家庭と連携しながら、丁寧な指導を心掛けてまいります。その反面、「生徒ともっとコミュニケーションをとってほしい。」というご意見もいただきました。教育相談を今後も大切に位置づけ、日常的な声かけも心掛けて生徒理解に努めていきます。「先生たちがもっとやる気を見せて、生徒も先生も生き生きと活動できる学校にしてほしい」というご意見もいただきました。職員も、それぞれの持ち場で、生徒が生き生きと学び成長できるよう精一杯努めているつもりですが、さらに指導のあり方を見直し、研鑽に励んで、より良い南中となるよう努力してまいります。

【部活動】 「不慣れな競技でも、練習によく顔を出していただきありがたい」というお言葉をいただきました。励みにさせていただき、今後も部員との関わりを大切にして指導にあたってまいります。「自主練習や対外試合等の負担が大きい」とのご意見もいただきました。部活動運営委員会でも協議しつつ、生徒自身が充実感を感じながら成長していける適切な部活動のあり方を考えていきたいと思ひます。

【その他】 図書館の利用についてもご意見をいただきました。エコール(上田市図書館とのネット接続)は、費用面・効率面から導入は考えていませんが、生徒がより図書館を利用できるように、読書指導を工夫していきます。その他、職員の生徒に対する言動、職員の勤務態度、人権教育、不要物、学校環境等についても、ご意見やご指摘をいただきました。改善すべきところは改善し、生徒が安心して快適に生活できる学習環境をつくっていききたいと考えています。

3. まとめ

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。今回のアンケートを通して、友達との関わりを大切にしながら、合唱などの集団活動に前向きに生き生きと取り組めるところが本校の良さであることが、改めて見えてきました。その反面、学習内容の理解、学校や家庭での学習への取り組み、授業の工夫や改善、生活習慣づくり等、学力向上に関わる点が本校の課題であると言えます。

物事にまじめに取り組める本校の雰囲気大切にしつつ、保護者の皆様や地域の皆様のお力をお借りしながら、学力向上を柱に据え、さらに誇れるような学校づくりを目指してまいります。今後もご理解とご協力をよろしくお願い致します。

調査対象者	生徒	保護者	職員
調査数	195	174	23